

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町 (1Fユニット)		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和6年10月22日	評価結果市町村受理日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2290400247-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。
 コロナウイルス5類後より外出支援、ご家族様との外出・外泊をスタートしました。
 天候が良い日には、ホーム前の川沿いの道を散歩にも行き、気分転換も実施しています。
 2024年3月よりグループホームの中で行う共用デイサービスもスタートしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年4月より共用デイサービスを始めています。規定では2ユニット6名まで受入れ可能ですが、まずは3名を予定しています。日中にデイサービス専任職員を配置したことにより、ドライブなどの戸外活動が増え、プチ旅行として修善寺、熱海へと足を延ばすことも実現しました。所内の祭りでは沼津、熱海、三保、藤枝から法人内の職員が応援にきて賑わいが増し、駐車場にテーブルを並べて、花見弁当をお重に詰めての食事が催されています。一方、自立支援ケアの取組は日常に溶け込み、作業療法士の助言と職員の「気づきシート」を併用した運動や体操が継続されていて、目に見えるその成果に利用者本人だけでなく家族も喜んでいま

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします」との理念があり、事務所に掲示し、研修やキャリアパス等の場で、学ぶ機会を作り実践につなげている。	新人には3か月に一度、理念の研修があります。研修後は管理者又はリーダーが「何を大切にしているのか」を確認のうえ、理念に基づいた介護となるよう説明しています。また全職員対象に、半年に一度は理念の浸透を確認しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域清掃に参加したり、近所のお祭りに参加するなどして地域とのかかわりを持っている。また、近所に住んでいたご利用者様の散歩の際には、なじみの方との挨拶を交わし会話を楽しまれるなどの交流を見られる。	近隣の河川周辺や道路の清掃が年に2回あり、利用者と職員とで時には5名程のグループで参加しています。また近所からは趣味で演奏活動をしているという5人組が事業所の前で楽曲披露くださることも重ねられ、利用者も楽しんでます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの活動内容の写真を乗せたり、認知症の方のかかわりを掲載した新聞を営業の際に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様との関りなど、日ごろの様子を撮った写真を、パソコンを使い見て頂き、それについて意見をいただき、サービス向上に努めている。	運営推進会議は隔月開催を遵守していますが、外部からの出席者は行政関係者のみなことから、毎月の通信で家族へ参加を呼びかけ、また回覧板に入れて地域へも声掛けしています。まだ成果には実らず、発信は継続していくこととしています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に、運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みについてもお伝えしたり、電話等でも相談や協力をしていただいている。	共用型デイサービスを運営している事業所は市内にはこれまではなく、行政も事業所も初めての試みで、申請については電話でも親切に相談にのってもらえたほか、どうしてもわからない場合は市役所に直接足を運んで教示を受けています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束では、3ヶ月に一度不適切なケアも含め考える機会を作り、身体拘束廃止委員会を開催し、議事録を職員にも共有している。	開催前には必ず不適切ケアチェックシートに取組、その結果の下、身体拘束廃止委員会が開催されています。年度初めの5月に第一回目として順次3か月毎に重ねており、議事録はユニットごとに回覧、確認印を押すことで視認を堅固にしています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を定期的に行い、虐待につながるようなケアを見つけた時には、報告するよう説目を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して、学ぶ機会をつくり、必要性を理解するようにしている。また、実際にそれが必要なご利用者様には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い、不安や疑問に思うことをお伺いし、お応えしている。また電話等でも疑問についてお応えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置を行っている。また、面会時の時に聞いた意見や電話連絡を行ったときに頂いた意見は運営に反映する様にしている	ホームページの随時更新のブログとともに、「愛の家通信」では担当職員の手書きのコメント及び日常の様子が写真を通じて家族に状況が届けられ、また意見箱に入った進言を速やかに対応することで、双方向のやりとりが叶っています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、会議等でも積極的に発言できるようにし、反映させている。	ユニットの会議もありますが、毎月の個人面談で様々意見を吸い上げていて、定着率も高く維持されています。職員から「救命救急講習を行ってほしい」とあったことから消防署の署員による講習会が開催されています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの制度を活用し、職員のやりがいになる職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加するように促している。また、資格支援制度などもとりいれ、資格等に関しても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、小規模部会を開催し交流する機会をもうけている。またその中で、活動報告等も行い、お互いのサービス向上につながるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には積極的に、ご本と関わる時間をとれるよう努め、不安や困りごとがないかお聞きするようにしている。また入居前にもご家族様やご本人にまお話を聞き、ケアプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様に、ホームでどのように生活してほしいかを伺い、ケアプランに取り入れている。また、電話にてご本人の様子をお伝えするなどして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様との話し合いの中で、他のサービスが必要である場合には対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、それぞれができる事を行い、役割を持っていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話す機会をもうけ、ご本人についての情報をお聞きしながら、ホームでできること、ご家族様をお願いすることなど話し合い一緒に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームにご本人の友人の方が面会に来てくださったたり、昔からのかかわりが途切れることがないよう務めている。	使い慣れた化粧水を今も使う人や、事業所で取る新聞を順番に読み進める人たちもいます。バイク好きな人とはバイクショップの前を通るとき話題を振ったり、保育士だった人には「先生」と知人から声が入っていて、散歩が関係継続や回想につながっています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が話せる機会があるよう、会話が續かない時にはスタッフが介入したり、レクリエーションをとおして、自然と会話が出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、困ったことがあれば相談に乗ったり係わりが途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、何をしたいかなど会話の中で聞くよう心掛けている。また、サービス担当者会議では、気づきシートを活用し、本人のやりたいこと・夢を聞きスタッフ同志共有している。	毎日の介護記録、食事量、排泄、水分摂取、バイタル、投薬、入浴、事故、運動、睡眠などのデータが電子記録できる為、紙媒体より時間短縮につながり、利用者との関わりが増えています。そのような中、希望に応じて職員が日帰り温泉に同行する例もあります	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活をご本人やご家族様にお聞きしたり、前施設のケアマネより情報をいただいたりしながら把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状況については、日々スタッフ間で申し送りを行い、朝礼や会議等でも議題に出し変化があるときには、対応を変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本にの様子を、主治医・ナースにその都度報告し意見やアイデアをいただいている。また、面会に来られた時や電話等でご家族にも報告した時の要望などをスタッフ同士で共有し、担当者会議を開き介護計画に反映している。	家族には意向を電話で聞き取り、職員が気づきシートに基づきユニット会議で意見の共有を図って介護計画書が作成されています。職員が電子上で記録するためには介護計画書を把握していないとできない仕組みとなっていて、目を通しては確かです	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の電子記録(ノータイス入力)に個別に記録し情報を共有し介護計画の見直し時に活用できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の体調などによっては、往診以外の受診も職員が行ったり、遠方のご家族様とはリモート面会など行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握までには至ってはいない。本人様が心身の力を発揮できるように支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人、御家族様に意向を聞いている。かかりつけ医との連携はとれている。対応が必要な毎お伝えし納得される医療を受けられるように支援している。	2名が従来のかかりつけ医を継続し、その内の1名は家族が経営する病院を担当医としています。15名が事業所の協力医へと変更、職員が通院介助をおこない、記録は受診報告書に残しており、家族にはその都度状況を報告しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来てくださるので、その時には相談したい利用者様がいた時は報告し適切な対応が行えることが出来るように連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時にはホームでの生活の情報提供を病院側と連携をとりながら迅速に対応できるようにしている。又、入院中でも御家族様に了承を得たうえで状態、状況を把握できるように定期的に情報交換、相談が出来る対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様の意向と本人様の状態も踏まえ病院側と相談しながら方向性を決めている。終末期、看取りの対応になる時は、ご家族様、現場スタッフと話し納得、環境が整った上でチームでケアを行っていくようにする	以前は看取りに取り組んでいましたが、現在はおこなっていません。そのことは家族にも伝えたくて、契約に至っています。重度化した場合は家族の了解の下、訪問看護事業所に協力を仰ぎ、更に進行があれば移設について家族と話し合うといった手順としています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が分かりやすいようにマニュアル作成をし、目の届くところに置いてあり把握できるようにしている。職員は救命講習をうけている。又、会議などで説明も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練で職員全員が把握できるように努めているが地域との協力体制に関しては十分とは言えない。	4月に地震と通報の訓練、11月は台風水害、火災、通報、消火の訓練とともに電話による連絡網試用と、年2回の法定訓練のメニューは豊富です。消防署には水消火器を借りたほか4月の訓練時には立ち合いを依頼し、指導を受けています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に対し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ出来る対応に努めている。	プライバシー保護と権利擁護研修を年一回実施しており、その積み重ねの成果がでたようで、N Gワードの置き換えには向上がみられています。接遇・マナーについてはトイレでの排せつ時のドアの開閉や、排せつ確認の伝え方などを特に注意しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護等でその方の日々の様子を話し、希望を言われたり自己決定出来る働きかけを行う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合の優先はせずその方のペースを大切に、希望に合わせた対応を行える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様や御家族様にどんなおしゃれをされていたか聞きながらそれに近づけられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は行って頂ける様に働きかけている。1人ひとり出来る事を見極め行えることを支援できるようにしている。	おせち料理、花見弁当、鰻ちらし、敬老の日は鰻重メインのお膳と、行事食にも力を入れています。調理では利用者は下準備などをおこない、職員は「調味料は何入れる？」と利用者尋ね、キッチンに並んで立つことが日常にあります	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事においてはその方がの状態に応じた食事、形態の対応などを行っている。又食事量や水分量の把握に努めるため一覧にして記録として残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状態に応じた口腔ケアの対応が出来るように努めている。場合によっては歯科往診で検診して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄の記録をもとに必要な利用者様においては会議等で話し合いその方の排泄パターンを見つければ本人様の不快を減らし、また、自立に向けた支援を行う様にしている	平均介護度は2.27です。リハパンツは15名、2名が布パンツです。下剤服用していた人が水分摂取や運動支援を続けた結果、自然排便できた例もあり、全体として安定剤等の量が減ってトイレ誘導の歩行やトイレでの排せつが安定しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳の提供。水分量の把握を行い工夫した提供。又散歩や適度な運動の促しを行い予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その時のご様子で希望、タイミングに合わせゆっくり楽しく個々に添った対応を行っている。	人毎に湯を入れ替え、ユニットごとにローテーションで廻すことで、おおよそ週2、3回の入浴が叶っています。時折入浴剤で楽しんだり、ゆずやみかんを浮かべる日もあります。また要望があれば入浴外出をおこなっています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の様子を見てその方に合わせた過ごし方が出来るように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイルにいれ誰も見れ確認出来る場所に保管している。服薬の注意点に関しては薬剤師から直接話があるのでそれを現場で共通も情報として周知出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の希望、御家族様からの要望があった時には支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様からの要望があれば行けるようにつとめていく	毎日朝食後におこなう散歩や、午前と午後の体操で筋力低下が防げていることから、面会に来た家族も飲んでいきます。外出支援の年間計画はないものの共用型デイサービス職員が1名配置されたことからドライブも増えています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が好きなものを買えるようにはなっているが、しかし、ホームまで来てくださる移動販売の時には希望に応じて好きなものを購入して頂けるようにする		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの希望があれば行う様に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日の掃除を行い不快がないように努めている。また季節感を感じて頂ける様に工夫し共用スペースに貼り楽しく居心地よく過ごして頂ける様に工夫が出来利用にしている	陰圧装置で無菌室になるような装置を各フロアと相談室に置きコロナ対策を継続しています。1台で100畳分を賄う能力があり、換気も必要なくなっています。消毒はコロナ禍と同じ方法を続け、1日2回主にコンタクトポイントをアルコールで拭いています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお話が合う方と近くの席を設けたり、ソファで集まり好きな方のDVDを見られたり思い思いに過ごせる共用空間が提供出来るように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋は利用者様、御家族様と話し居心地よく過ごされる環境作りに努める	携帯電話を持ち込む利用者は、自室で家族と連絡をとっています。自立度が高い利用者の部屋には冷蔵庫やテレビが置かれ、また自身が以前制作した刺繍作品を飾る人や、クラフトアートを季節ごとに家族が入れ替えてくださるという人もいます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースのトイレの場所はわかりやすいように掲げている居室内でも配置の工夫を行い出来る事、わかる事、安心して生活が送れるようにしてい		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町 (2Fユニット)		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和6年10月22日	評価結果市町村受理日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2290400247-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。
 コロナウイルス5類後より外出支援、ご家族様との外出・外泊をスタートしました。
 天候が良い日には、ホーム前の川沿いの道を散歩にも行き、気分転換も実施しています。
 2024年3月よりグループホームの中で行う共用デイサービスもスタートしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年4月より共用デイサービスを始めています。規定では2ユニット6名まで受入れ可能ですが、まずは3名を予定しています。日中にデイサービス専任職員を配置したことにより、ドライブなどの戸外活動が増え、プチ旅行として修善寺、熱海へと足を延ばすことも実現しました。所内の祭りでは沼津、熱海、三保、藤枝から法人内の職員が応援にきて賑わいが増し、駐車場にテーブルを並べて、花見弁当をお重に詰めての食事が催されています。一方、自立支援ケアの取組は日常に溶け込み、作業療法士の助言と職員の「気づきシート」を併用した運動や体操が継続されていて、目に見えるその成果に利用者本人だけでなく家族も喜んでいま

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします」との理念があり、事務所に掲示し、研修やキャリアパス等の場で、学ぶ機会を作り実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃に参加したり、近所のお祭りに参加するなどして地域とのかかわりを持っている。また、近所に住んでいたご利用者様の散歩の際には、なじみの方との挨拶を交わし会話を楽しまれるなどの交流を見られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの活動内容の写真を乗せたり、認知症の方のかかわりを掲載した新聞を営業の際に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様との関りなど、日ごろの様子を撮った写真を、パソコンを使い見て頂き、それについて意見をいただき、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に、運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みについてもお伝えしたり、電話等でも相談や協力をしていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束では、3ヶ月に一度不適切なケアも含め考える機会を作り、身体拘束廃止委員会を開催し、議事録を職員にも共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を定期的に行い、虐待につながるようなケアを見つけた時には、報告するよう説目を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して、学ぶ機会をつくり、必要性を理解するようにしている。また、実際にそれが必要なご利用者様には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い、不安や疑問に思うことをお伺いし、お応えしている。また電話等でも疑問についてお応えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置を行っている。また、面会時の時に聞いた意見や電話連絡を行ったときに頂いた意見は運営に反映する様にしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、会議等でも積極的に発言できるようにし、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの制度を活用し、職員のやりがいになる職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加するように促している。また、資格支援制度などとりいれ、資格等に関しても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、小規模部会を開催し交流する機会をもうけている。またその中で、活動報告等も行い、お互いのサービス向上につながるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には積極的に、ご本と関わる時間をとれるよう努め、不安や困りごとがないかお聞きするようにしている。また入居前にもご家族様やご本人にまお話を聞き、ケアプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様に、ホームでどのように生活してほしいかを伺い、ケアプランに取り入れている。また、電話にてご本人の様子をお伝えするなどして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様との話し合いの中で、他のサービスが必要である場合には対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、それぞれができる事を行い、役割を持っていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話す機会をもうけ、ご本人についての情報をお聞きしながら、ホームでできること、ご家族様をお願いすることなど話し合い一緒に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームにご本人の友人の方が面会に来てくださったり、昔からのかかわりが途切れることがないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が話せる機会があるよう、会話が續かない時にはスタッフが介入したり、レクリエーションをとおして、自然と会話が出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、困ったことがあれば相談に乗ったり係わりが途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、何をしたいかなど会話の中で聞くよう心掛けている。また、サービス担当者会議では、気づきシートを活用し、本人のやりたいこと・夢を聞きスタッフ同志共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活をご本人やご家族様にお聞きしたり、前施設のケアマネより情報をいただいたりしながら把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状況については、日々スタッフ間で申し送りを行い、朝礼や会議等でも議題に出し変化があるときには、対応を変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本にの様子を、主治医・ナースにその都度報告し意見やアイデアをいただいている。また、面会に来られた時や電話等でご家族にも報告した時の要望などをスタッフ同士で共有し、担当者会議を開き介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の電子記録(ノート入力)に個別に記録し情報を共有し介護計画の見直し時に活用できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の体調などによっては、往診以外の受診も職員が行ったり、遠方のご家族様とはリモート面会など行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握までには至ってはいない。本人様が心身の力を発揮できるように支援できるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人、御家族様に意向を聞いている。かかりつけ医との連携はとれている。対応が必要な毎お伝えし納得される医療を受けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来てくださるので、その時には相談したい利用者様がいた時は報告し適切な対応が行えることが出来るように連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時にはホームでの生活の情報提供を病院側と連携をとりながら迅速に対応できるようにしている。又、入院中でも御家族様に了承を得たうえで状態、状況を把握できるように定期的に情報交換、相談が出来る対応を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様の意向と本人様の状態も踏まえ病院側と相談しながら方向性を決めている。終末期、看取りの対応になる時は、ご家族様、現場スタッフと話し納得、環境が整った上でチームでケアを行っていくようにする		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が分かりやすいようにマニュアル作成をし、目の届くところに置いてあり把握できるようにしている。職員は救命講習をうけている。又、会議などで説明も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練で職員全員が把握できるように努めているが地域との協力体制に関しては十分とは言えない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に対し誇りやプライバシーを損ない言葉かけ出来る対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護等でその方の日々の様子を話し、希望を言われたり自己決定出来る働きかけを行う様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合の優先はせずにその方のペースを大切に、希望に合わせた対応を行える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様や御家族様にどんなおしゃれをされていたか聞きながらそれに近づけられるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は行って頂ける様に働きかけている。1人ひとり出来る事を見極め行えることを支援できるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事においてはその方がの状態に応じた食事、形態の対応などを行っている。又食事量や水分量の把握に努めるため一覧にして記録として残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状態に応じた口腔ケアの対応が出来るように努めている。場合によっては歯科往診で検診して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄の記録をもとに必要な利用者様においては会議等で話し合いその方の排泄パターンを見つけ本人様の不快を減らし、また、自立に向けた支援を行う様にしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳の提供。水分量の把握を行い工夫した提供。又散歩や適度な運動の促しを行い予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その時のご様子で希望、タイミングに合わせゆくり楽しく個々に添った対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の様子を見てその方に合わせた過ごし方が出来るように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイルにいれ誰も見れ確認出来る場所に保管している。服薬の注意点に関しては薬剤師から直接話があるのでそれを現場で共通も情報として周知出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の希望、御家族様からの要望があった時には支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様からの要望があれば行けるようにつとめていく		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が好きなものを買えるようにはなっているが、しかし、ホームまで来てくださる移動販売の時には希望に応じて好きなものを購入して頂けるようにする		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの希望があれば行う様に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日の掃除を行い不快がないように努めている。また季節感を感じて頂ける様に工夫し共用スペースに貼り楽しく居心地よく過ごして頂ける様に工夫が出来利用にぞいている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお話が合う方と近くの席を設けたり、ソファで集まり好きな方のDVDを見られたり思い思い過ごせる共用空間が提供出来るように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋は利用者様、御家族様と話し居心地よく過ごされる環境作りに努める		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースのトイレの場所はわかりやすいように掲げている居室内でも配置の工夫を行い出来る事、わかる事、安心して生活が送れるようにしてい		